

北九州市発達障害者支援センター「つばさ」

令和6年度 事業実施状況

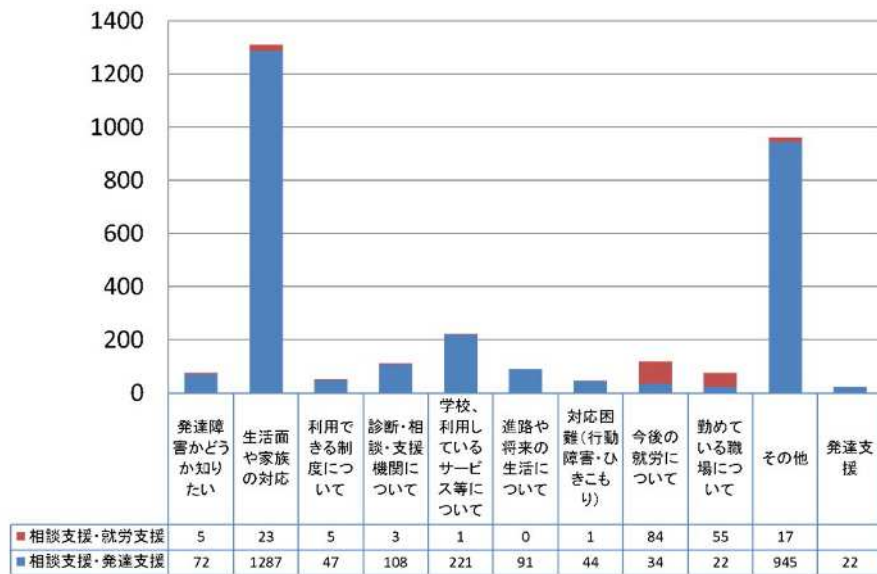
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

作成日: 2025.4.5

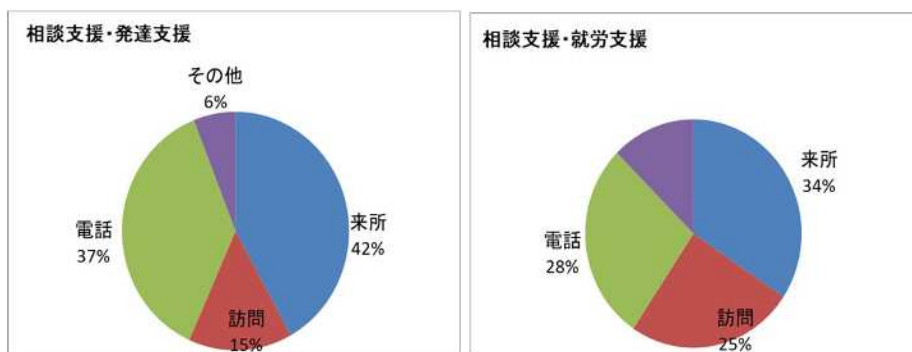
延支援件数の内訳

延 支 援 件 数	相 談 支 援 発 達 支 援	2165
	相 談 支 援 就 労 支 援	139
合計(件数)		2304

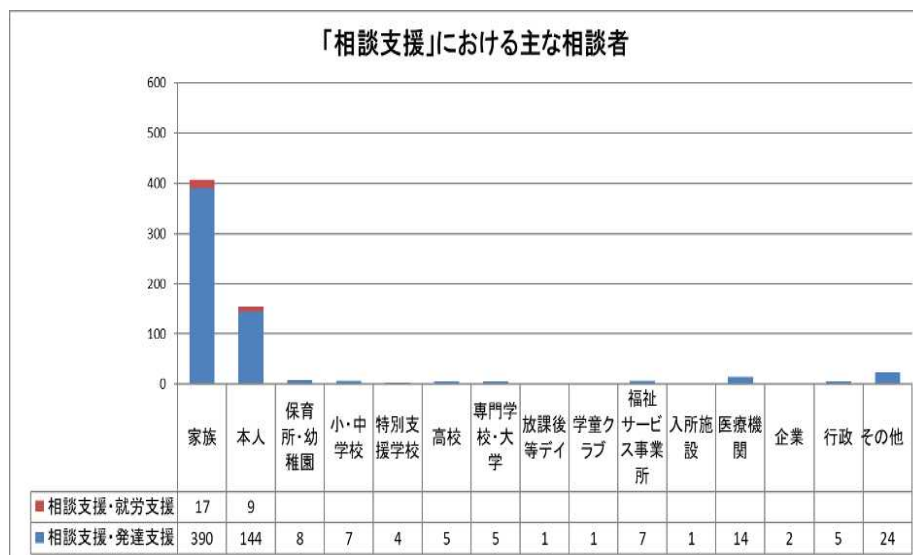
相談内容(重複有り)



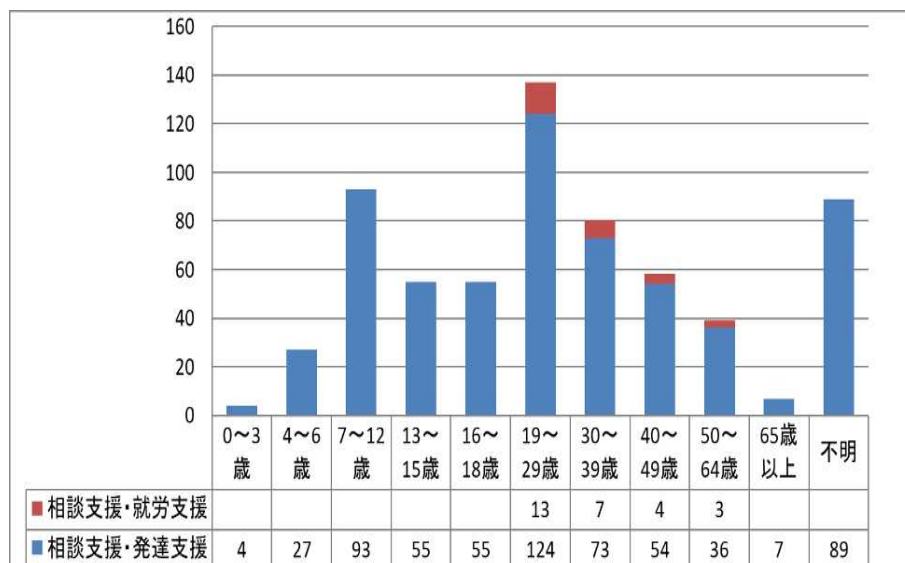
「相談支援」における相談方法 (延支援件数2304件)



「相談支援」の相談者の内訳(実人数644人)

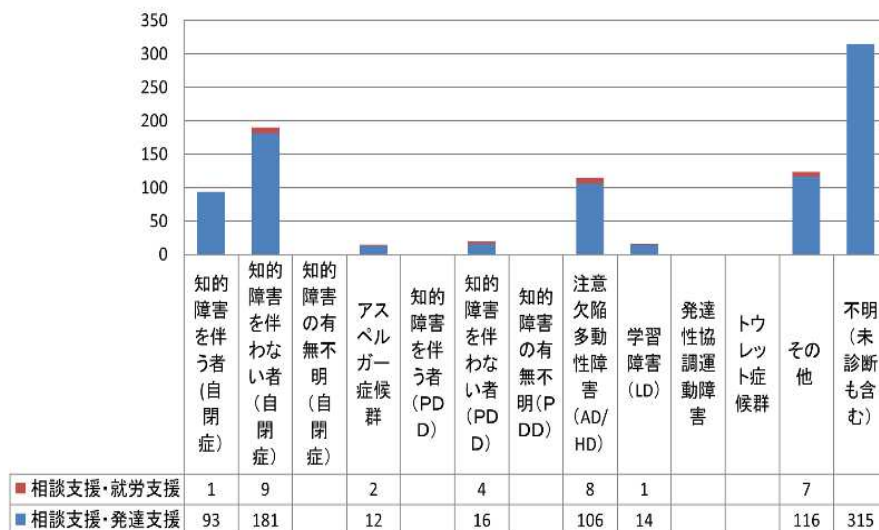


対象者の年齢層(実人数644人)



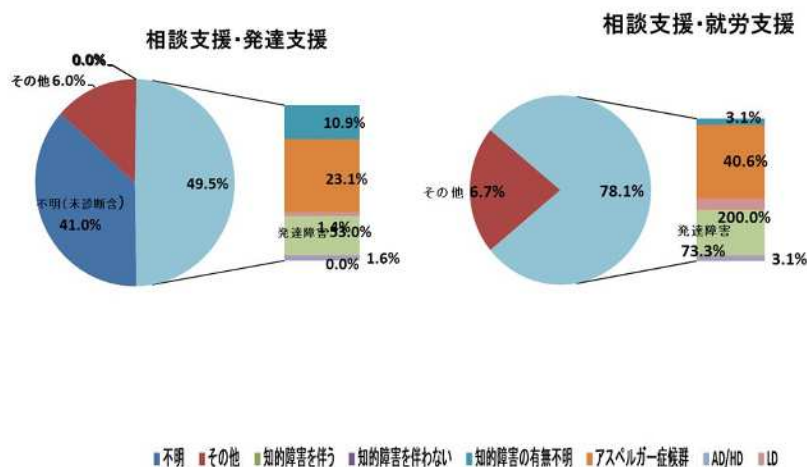
障害種別（実支援人数644人）

対象者の障害種別

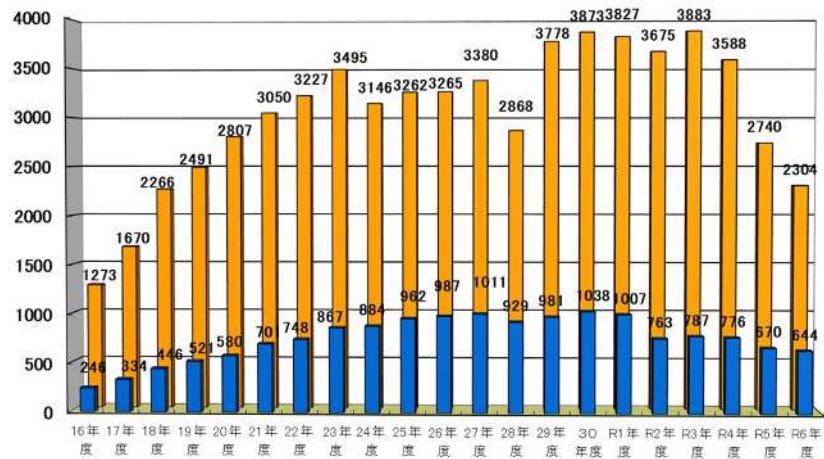


発達障害の有無（実人数644人）

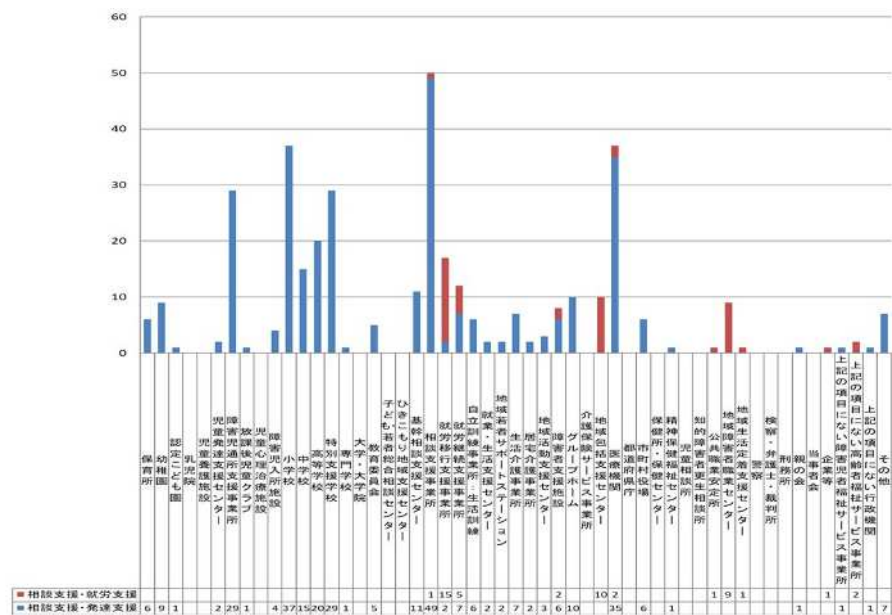
※医師の診断名でカウント



相談人数・支援件数の推移(16年度～)



連携先の機関

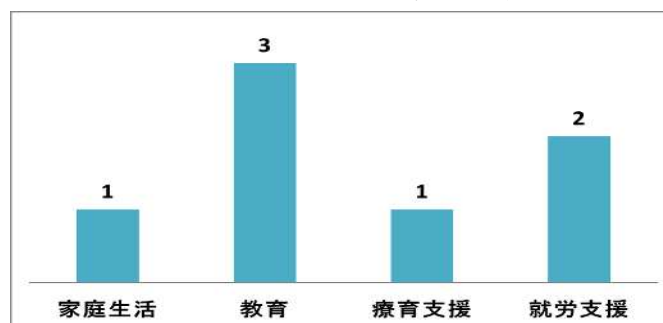


個別支援のための調整会議

- ・調整会議を開催した実支援人数…………… 4人
- ・調整会議の回数……………5件

会議の主なテーマ内訳

(1人につきテーマは重複する場合あり)



機関コンサルテーション

- ・ コンサルテーション回数 ……………64件

内訳	対応方法の助言指導	54
	心理査定	10

- ・ 主な機関 ……………32カ所

保育所・幼稚園 認定こども園	6	特別支援学校	2
学童クラブ	1	福祉サービス事業所	4
放課後等デイサービス 事業所	2	グループホーム 入所施設	4
小・中・高等学校	6	企業、医療機関	7

専門家との連携

高機能発達障害対象

納富恵子氏(老健ふなき)との契約

- ・午前 保護者勉強会(学齢期グループ)
- ・午後 保護者勉強会(成人期グループ) 年1回

「困難ケース」の発達障害対象

浅野社会復帰センター・子ども若者応援センター

- ・事業説明及び事例に対する助言

年1回ずつ

今本繁氏(合同会社ABC研究所)との契約

- ・行動障がい研修会、行動障害への助言 年3回

普及啓発及び研修

◇外部から講師依頼を受けた研修 (総回数:30)

対象	延対象者	研修内容
保護者、学校、福祉施設、幼・保育所、就労機関職員、一般	2325	発達障害全般、療育・教育方法、診断・評価など

◇親の会3団体との連絡会議

自閉症啓発デーのイベント、研修等の調整

◇ホームページ

研修案内、小冊子、リーフレット、改訂版サポートファイル「りあん」の資料を掲載

テーマ	日程	講師
発達障がい者支援のための 初級セミナー	6月29日(土) ～30日(日)	川崎医療福祉大学医療保育科 講師 重松孝治氏 川崎医療福祉大学 准教授 諏訪利明氏
行動障がいがある発達障がい者への 支援とは	8月4日(日)	ABC研究所 代表 今本繁氏
発達障がい児者の理解と支援	9月8日(日)	北九州市立総合療育センター 児童精神科医 山口若菜氏
発達障害について学ぶ市民講座 「うちの火星人」	10月27日(日)	平岡禎之氏・ワッシーナ氏
実践報告会	2月23日(日)	コメンテーター 納富恵子 氏(精神科医師) 今本繁 氏(ABC研究所 代表) 実践発表(5名)
就職活動の実践セミナー	3月9日(日)	櫻井淳子キャリアデザイン事務所 キャリアコンサルタント 櫻井淳子氏

家族を対象とした勉強会

テーマ・対象	時間	回数
発達や行動が気になる子ども		
①未就学児～小学生	10:00～12:00	5回
②中学生以上	10:00～12:00	5回
高機能発達障害児者を持つ家族 (前掲)		
①学齢期	9:30～12:00	1回
②成人期	13:30～16:00	1回

当事者を対象としたプログラム

名称	対象者	回数・頻度等
生活支援プログラム	在宅の方	2週間に1回、もしくは月1回
ソーシャルクラブ	成人期	年8回
青年期ワークショップ	中学生・高校生	年4回

会議への参加状況

会議の名称	回数
障害者総合福祉法89条の協議会等 (障害者自立支援協議会、発達障害者支援地域協議会、障害者差別解消支援地域協議会等)	7回
他の協議会 (子ども・若者支援地域協議会、若者自立支援機関連携会議等)	4回

専門学校への聞き取り

- 専門学校における発達障害学生に対するキャリア支援の実態把握を行うため、市内7校に聞き取り調査を実施した。
- 専門学校在学の早い段階から、若者サポートステーション等就労支援機関への相談が必要な学生が少なくないことが分かった。
- 複数の専門学校から、「高校卒業までに、『生活リズム』『コミュニケーションスキル』『自己認知』を培っておいてほしい」という意見があった。

まとめ

- 今年度は昨年度に比べて、実人数が26人、相談支援件数が336件減少している。
- 今年度の実人数が減少している一因として、「他機関（相談支援事業所や放課後等デイサービス事業所等）の機能の充実」が考えられる。
- 相談件数が減少している大きな要因としては、厚生労働省の支援件数のカウント方法が変更したためである。また、「単回で終了するケースが増加したこと」が考えられる。

まとめ

- 相談者は、「保育所・幼稚園」、「専門学校・大学」からの相談が少し増加している。
- 就労支援の「相談方法」が、「訪問」が増加している。相談内容、対象者の年齢、大きな変化はない。障害種別は、「ADHD」がかなり増加している。
- 連携先は、「障害児通所事業所」と「特別支援学校」が増加している。
- 「機関コンサルテーション」は、昨年度よりも大幅に増加している。「保育所・幼稚園」が多い。

今後の方向性

- 人材育成（各種研修会、機関コンサルテーション）
- 親が学ぶ場の拡充（家族の勉強会に他機関からの参加を促す）
- 強度行動障害がある人への支援強化（事例検討会、チームによる機関コンサルテーション）
- 就労支援（関係機関との連携強化）

令和6年度 北九州市発達障害者支援センター事業経過報告

1. 研修

テーマ	日程	講師	定員 参加人数（市・県）	会場
発達障がい者支援のための 初級セミナー	6月29日（土） ～30日（日）	川崎医療福祉大学医療保育科 講師 重松孝治氏 川崎医療福祉大学 准教授 諏訪利明氏	100 (55・31)	ウエルとばた 多目的ホール
行動障がい研修会	8月4日（日）	ABC 研究所 代表 今本繁氏	100 (69・40)	総合療育セン ター
発達障がい児者の理解と支援	9月8日（日）	北九州市立総合療育センター 児童精神科医 山口若菜氏	100 (88・37)	ウエルとばた 多目的ホール
発達障害について学ぶ市民講 座 うちの火星入	10月27日 （日）	平岡禎之氏 ワッシーナ氏	400 (100)	北九州学術研 究都市メイン ホール
実践報告会-発達障がい児者支 援の実際	2月23日（土）	老健ふなき 精神科医師 納富恵子氏 ABC 研究所 代表 今本繁氏	400 (129・36)	北九州学術研 究都市メイン ホール
発達障がい者のための就労支 援～就職活動の実践セミナー ～	3月9日（日）	櫻井淳子キャリアデザイン事務所 キャリア・コンサルタント 櫻井淳子氏	60 (48・6)	八幡西生涯学 習総合センタ ー

2. 普及・啓発

「自閉症啓発デー」

親の会3団体、つばさ、市（精神保健・地域移行推進課）による実行委員会にて実施

① 令和6年4月7日（日）13:30～15:00 北九州芸術劇場中ホール

「僕が跳びはねる理由」映画上映 189名参加

② ブルーライトアップ

小倉城（4月3日～5日）

小倉駅・黒崎駅周辺・チャチャタウン観覧車（4月2日～8日）

③ ポスター展示

障害者スポーツセンター「アレアス」（4月3日～8日）

④ 北九州市各区の図書館に、発達障害に関する本の展示（4月前後の約1ヶ月間）

3. 家族を対象とした勉強会

①「発達や行動が気になる子ども」の勉強会

今年度は当初、「未就学児から中学生までのお子さんをお持ちの保護者」対象と「高校生以上のお子さんをお持ちの保護者」対象の2グループの定員を10名ずつとした。しかし、受講希望者のお子さんの年齢により、「未就学児～小学生」と「中学生以上」のグループに分けた。

日程	前半（10:00～11：00）	後半（11:00～12:00）	人数
9月4日（小学生以下）	講義① 「発達障がいとは？」	ペアレント・プログラムに学ぶ① 自分のことを「行動で書く！」	9
9月11日（中学生以上）			3
9月18日（小学生以下）	講義② 「発達障がいの基本的な対応方法」	ペアレント・プログラムに学ぶ② 子どものことを「行動で書く！」	9
9月25日（中学生以上）			3
10月2日（小学生以下）	ペアレント・プログラムに学ぶ③ 「行動をカテゴリーに分けてみよう！」「ぎりぎりセーフ！を見つけよう！」		7
10月9日（中学生以上）			2
10月16日（小学生以下）	先輩保護者に学ぶ		8
10月23日（中学生以上）			3
10月30日（合同）	「福祉サービスについて」 講師：（相談支援事業所 アーチ 相談支援専門員） 酒井修平氏		12

②高機能の発達障害児者をもつ家族を対象とした保護者勉強会（アドバイザー：納富恵子氏）

＜対象者＞つばさに相談がある高機能発達障害児者を持つ家族

日程	グループ	テーマ	人数
2月26日	学齢期	子どもの気持ちを引き出す関わり方について	
	成人期	金銭教育について	

4. ペアレント・メンター事業

①今年度の活動

登録メンター数 18名

「気になる子どもの相談カフェ」 毎回1名ずつ

（一丁目の元気） 8/21 10/16 12/18

（穴生銀杏庵） 9/26 11/8

「保護者勉強会：先輩保護者に学ぶ」 未就学児～小学生 2名、中学生以上 2名

「児童発達支援センター保護者勉強会～サポートブックについて～」 1名

②応用研修

第1回 6月11日 10:00～11:30 「二次障害のある方への関わり方」

講師：つばさスタッフ

第2回 3月12日 10:00～11:30 「交流会」

5. 当事者を対象としたプログラム等

①生活支援プログラム

(対象) つばさに相談がある、在宅でどこにも所属していない相談者（登録2名）

(内容) つばさに定期的（2/M、1/M等）に通ってもらい、軽作業を行う。福祉サービス事業所や次のステップに繋ぐことを目的とする。

②ソーシャルクラブ（成人期当事者会）

5月～2月 計8回実施

(対象) つばさに相談がある成人の相談者

5名登録

(内容) 「室内でのレクリエーション活動」、「外出」、「テーマに基づく話し合い」、「活動計画の話し合い」「講話」「DVD鑑賞」など。同じ悩みをもつ仲間同士の居場所、余暇活動を提供。

回数	日程	時間	場所	活動内容
1回目	5月27日	15:00～16:30	つばさ	自己紹介（お気に入りのもの）、今年度の活動計画 レクリエーション（自己紹介カード）
2回目	6月24日	15:00～16:30	つばさ	レクリエーション(Wii-U ボウリング) DVD鑑賞の話し合い
3回目	7月22日	15:00～16:30	つばさ	室内活動（DVD鑑賞）（話し合い活動）
4回目	9月9日	15:00～16:30	つばさ	アイスブレイク（歴史の講話：明治維新） 外出活動の話し合い
5回目	10月21日	午後	外出	外出活動（九州鉄道記念館・門司港レトロ散策）
6回目	11月18日	15:00～16:30	つばさ	室内活動（トランプ）調理活動の話し合い
7回目	12月16日	15:00～16:30	若園市民センター	調理活動（バナナティラミス作り）
8回目	2月17日	15:00～16:30	つばさ	室内活動（ラジオ体操、ご当地クイズ）、今年度の振り返り、次年度の計画

※ 毎回2～5名が参加。

③「中学生・青年期を対象としたワークショップ」

※今年度は、中学生の参加希望が少なかったため、青年期と合同で実施した

夏期休暇中（7月～8月）、冬期休暇中（12月）を利用して計4回実施

(対象) つばさに継続相談がある、中学生及び青年期（高校生以上）の相談者

回数	日程	時間	場所	テーマ・活動内容
1 回目	7 月 26 日	15 : 00～16 : 30	つばさ	・ ルール説明 ・ 自己紹介カードゲーム ・ 進路選択について話す ・ Wii-U ボウリング
2 回目	8 月 9 日	15 : 00～16 : 30	つばさ	・ 自己紹介 ・ 推しの紹介 ・ 茶話会
3 回目	8 月 23 日	15 : 00～16 : 30	つばさ	・ 出前講座「北九州若者サポートステーションってどんなところ？」「グループワーク：どんな仕事があるのかな」 ・ 茶話会
4 回目	12 月 25 日	15 : 00～16 : 30	つばさ	・ 自己紹介 ・ 今年 1 番楽しかったこと、嬉しかったこと ・ クリスマスケーキ作り ・ 茶話会 来年の抱負

※ 毎回 1～3 名が参加

6. サポートファイル「りあん」の普及

保護者・本人：17 冊 支援者：126 冊

7. 専門学校におけるキャリア支援の聞き取り調査

(結果)

- ・ 昨年度は市内大学 8 カ所に聞き取りを行ったが、今年度は市内の 7 か所専門学校に聞き取りを行った。
- ・ 発達障害学生への取組みには、学校によって温度差があった。
- ・ コミュニケーションや社会性に課題のある学生に対して支援を行う学校は、2 校程度であった。
- ・ 内部のネットワークがあるのは 2 校程度であった。
- ・ 若者支援機関との連携がある学校が 2 校程度あり、障害者就労支援機関と連携はほとんどなかった。
- ・ 複数の専門学校から、「高校卒業までに、『生活リズム』『コミュニケーションスキル』『自己認知』を培っておいてほしい」という意見があった。

(課題)

- ・ 専門学校在学の早い段階から、若者サポートステーションへの相談が必要な学生が少なくない。
- ・ 専門学校は職業に関する知識・技術の修得が主な目的であるため、高校卒業までの教育期間中に、『生活リズム』『コミュニケーションスキル』『自己認知』を、就職した際に困らない程度に習得しておく必要がある。そのためには、①家族が学ぶ場、②家族を支える仕組み、③小・中・高等学校での取組（最低月 2 回程度の時間確保）が、必要と考える。